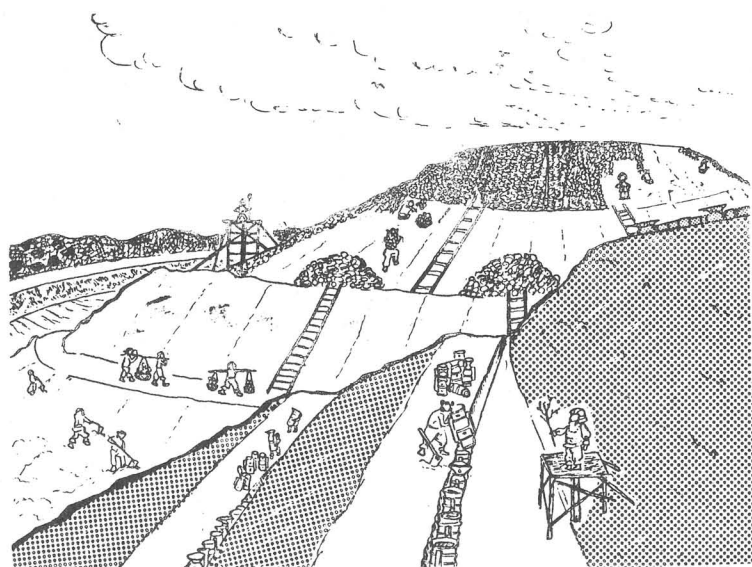
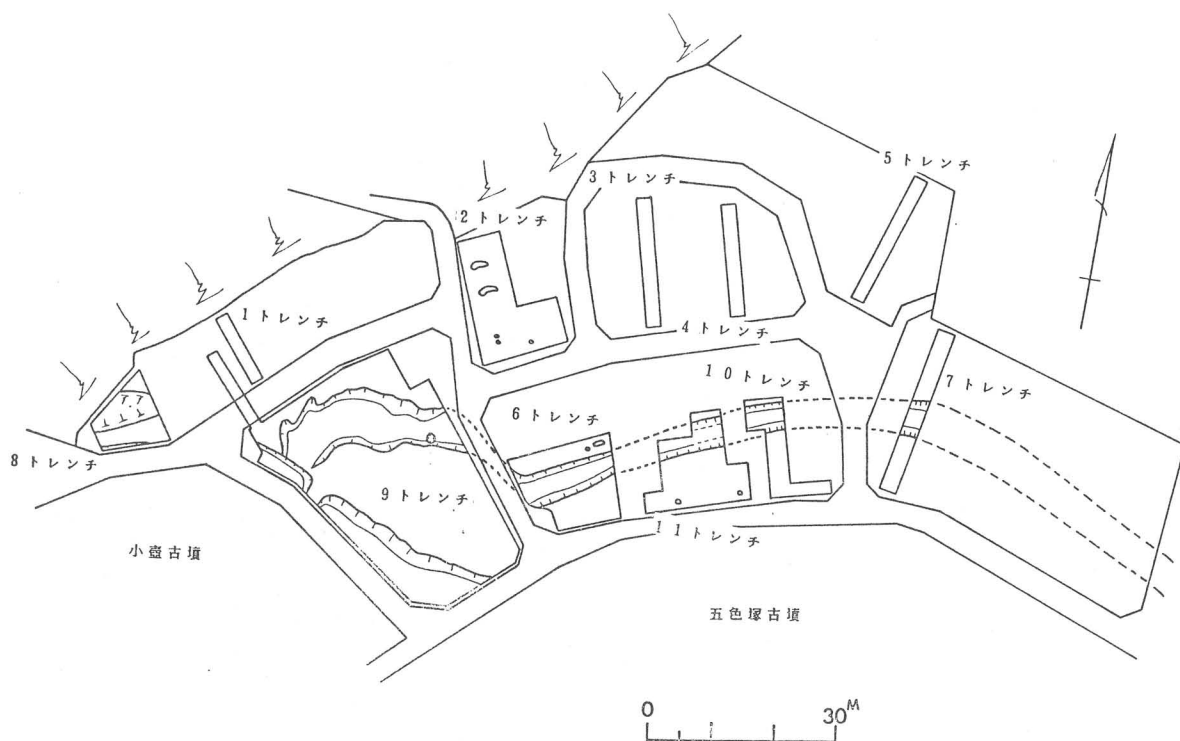


4. 今回の調査

昭和58年3月に実施した試掘調査の結果をもとに、今回、濠の外側をめぐる溝の形態を明らかにするためのトレンチを設定して、調査を行うことになりました。



5. 調査概要

五色塚古墳の北側と小壺古墳の北側と東側に合計11ヶ所のトレンチを設定して調査した結果

(1) 五色塚古墳の濠の外側に周溝がめぐっている

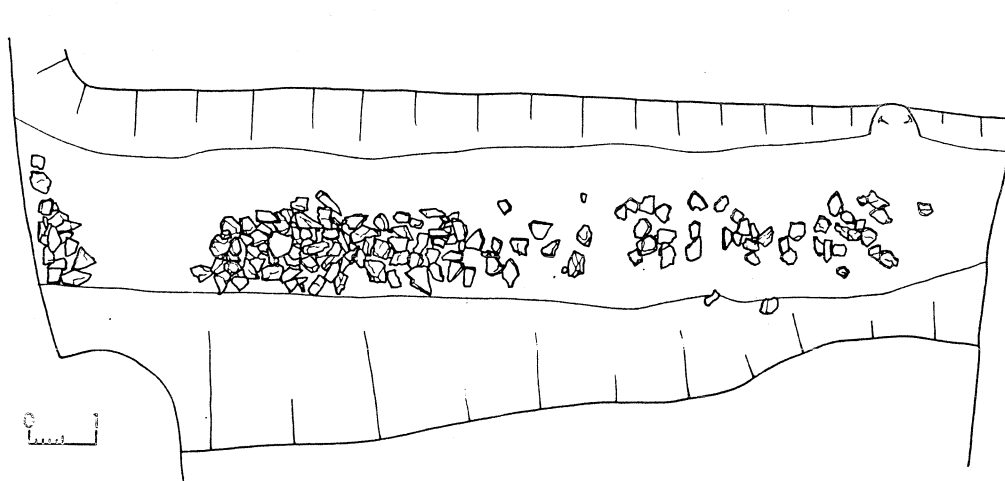
(2) 小壺古墳の周濠が検出され、濠の中に陸橋が存在している

(3) 意味不明のピットや土壇が存在している

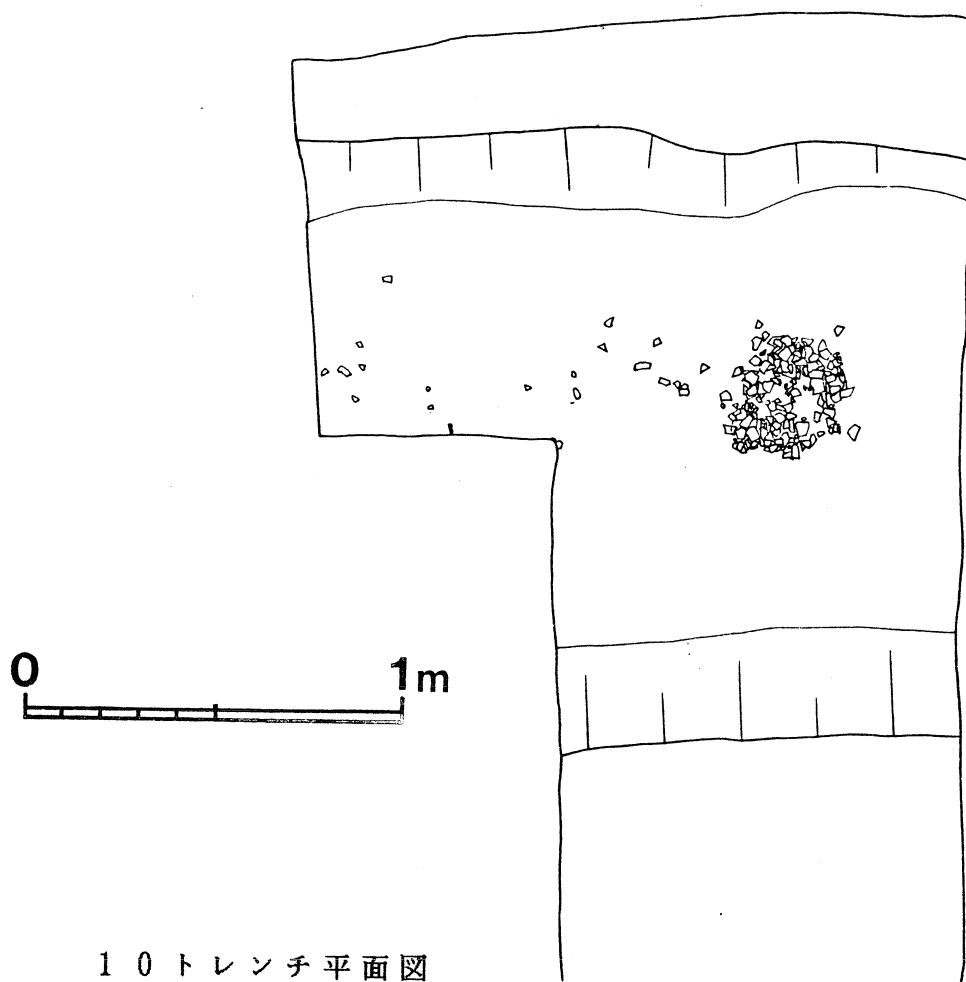
ことなどがわかりました。

(1) 五色塚古墳の周溝

五色塚古墳後円部濠にそって巡る溝で、幅2～5.3m、深さ20～55cmです。この溝は、6トレンチから9トレンチの間で北西に折れまがり、小壺古墳の周濠にとりつく可能性もあります。溝内からは意図的に破碎されたと思われる須恵器甕（時期は6世紀後半）や土師器、結晶片岩（紅簾片岩、緑泥片岩）埴輪、中世陶器が出土しました。特に結晶片岩は、溝内に土が堆積した6世紀後半以降に敷かれており、溝の肩が一部焼けている点から、6世紀後半以降に、五色塚古墳と関わる何らかの行為が行なわれた可能性を示しています。五色塚古墳の周濠と周溝の間は8～12mです。濠の外側に埴輪が立っていたと考えられ、埴輪の小片や埴輪の抜き取り穴と思われる径60cmのピットが2箇所検出されています。



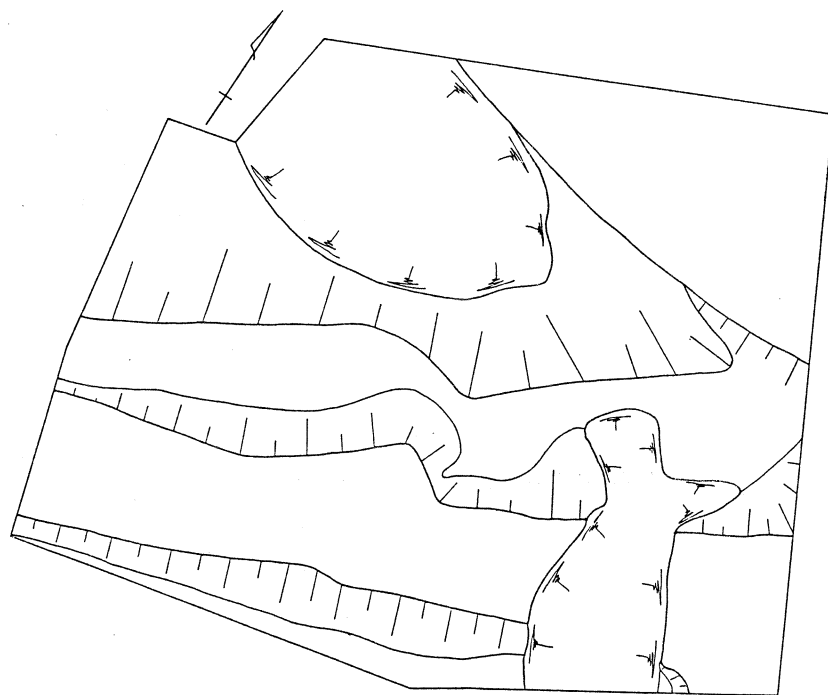
6 トレンチ平面図



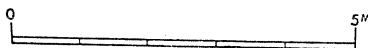
10 トレンチ平面図

(2)小壺古墳周濠、陸橋

小壺古墳の周濠は、古墳の北側から東側にかけてやや折れ曲がり、さらに東へ行くに従って外へ開き、五色塚古墳の周濠と接続していると考えられます。周濠内には陸橋が存在しています。陸橋は撥形を呈し、礫層の地山を掘り残し、一部盛土して築られています。上部幅は外堤側で1.6m、古墳側で3.6m 底部幅4.8m、高さ0.65mです。周濠は、北側で幅3m（検出幅）、深さ1.1m 東側で幅10m（検出幅）、深さ1.45mをはかります。このように周濠は、小壺古墳に沿って円形に巡らないことが判明しました。周濠内からは埴輪片や須恵器片が出土しています。



8 トレンチ平面図



(3)ピット

2トレンチから、3箇所ピットが発見されました。直径30cm、深さ20cmで層位的にみれば五色塚古墳と関連する時期の遺構と思われますが、性格は不明です。

(4)土壙 (S K 01)

9トレンチの溝が埋まったあとでつくられた楕円形の土壙です。大きさは長径1.1cm、短径0.9cm、深さ20cmで、壁面が火熱を受けて赤く焼けています。土壙内の上層から平安時代前期の須恵器短頸壺が出土しました。

出土遺物

A 埴輪

埴輪は、小壺古墳周濠や五色塚古墳外堤及び外堤周溝から出土しています。いずれも小破片のみで、出土量はさほど多くありません。ただし、五色塚古墳外堤丘からは、立てられた状態の埴輪が1点出土しています。出土した埴輪には、円筒埴輪と朝顔形埴輪があります。円筒埴輪は、復元すると直径30cm、第1段目のタガまでの高さが約30cmのヒレを持つタイプのもので、外面には縦方向のハケ目を施しています。

これまで五色塚古墳から出土しているものとかわりありません。須恵質の硬い焼きのものは一点もありません。

B 須恵器

須恵器は、五色塚外堤周溝と小壺古墳周濠、土壙S K 01から出土しています。

五色塚古墳外堤周溝から出土した須恵器は、胴部外面に平行叩き目、内面に青海文を残す、6世紀後半代の甕です。

小壺古墳周濠からは、甕と短頸壺の破片が数片出土しています。

一方SK01からは、平安時代前期のものと思われる短頸壺の底部が出土しています。

C 結晶片岩

五色塚古墳外堤周溝及び小壺古墳周濠から、和歌山県紀ノ川から徳島県吉野川にいたる構造帯で産出したと思われる変成岩が出土しました。種類は紅簾片岩・緑泥変岩などです。

D その他

五色塚古墳外堤周溝上層からは中世の土鍋の破片が出土しています。

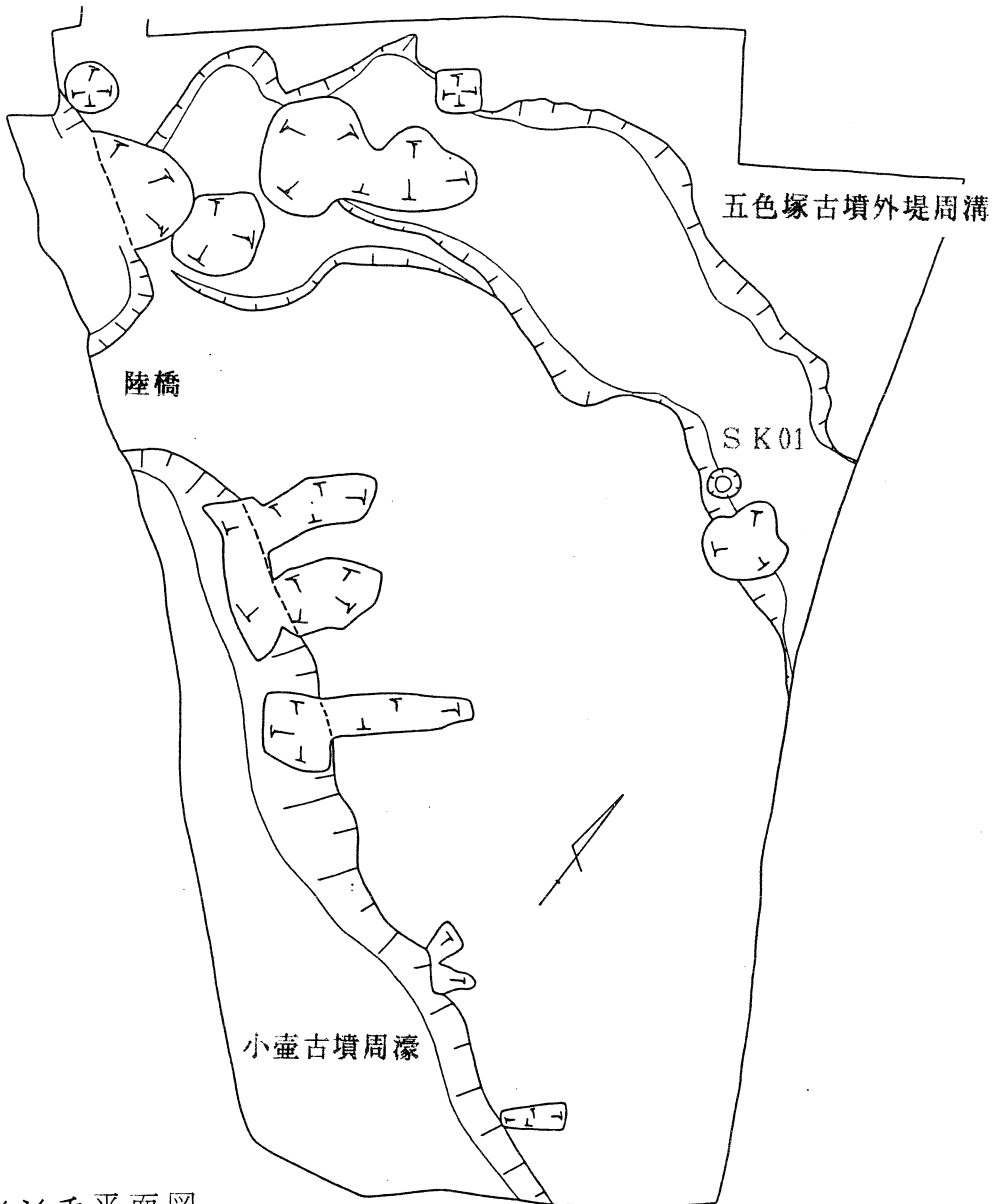
6. まとめ

今回の調査によって明らかになった事は

- ①五色塚古墳の外堤上には、埴輪が樹立していた可能性があります。ただし、埴輪片の出土状況から墳丘小段のように、密に並べられていたとは考えられないのが現状です。
- ②五色塚古墳の濠の外側に周溝が巡らされていたことが明らかになりました。更にこの周溝が6世紀後半まで存続していたことがわかりました。
- ③五色塚古墳と小壺古墳は、小壺古墳の東側で周濠を共有していることが明らかになりました。

④五色塚古墳と小壺古墳の築造時期は、小壺古墳が、五色塚古墳と同時又は後に築造されたと考えられます。

⑤五色塚古墳は、6世紀後半になっても、周濠内や周溝内で、須恵器を用いた何らかの行為が行なわれていた事が明らかになりました。



9トレンチ平面図

0 5

